

一人一人の心掛けで交通事故を防止

9月16日、さきたま古墳公園駐車場で「秋の全国交通安全運動出発式」が開催されました。

式典では、行田市交通安全母の会会長の相馬伸哉さんが県知事からのメッセージを伝達した他、県警白バイ隊による模範走行、交通安全講話が行われ、参加者は交通事故防止啓発への意識を高めました。

市内では9月に今年3件目となる死亡事故が発生しました(平成28年中の死亡事故は3件)。幸せな生活を一変させてしまう交通事故が無くなるよう一人一人が交通ルールを守り、交通事故防止を心掛けていきたいと思います。



行田リトルシニアが国際大会出場を報告

8月25日、行田リトルシニアの望月和義監督と選手らが工藤市長に、同月に出場した「東アジアリトルシニア野球宮崎大会2017」の結果報告を行いました。

同チームでは、昨年からの地下足袋を履いた練習に取り組むことにより素足で土をつかむ感覚を養い、動きの俊敏さなどに磨きをかけてきました。この大会では、残念ながら予選リーグで敗退しましたが、貴重な経験を積んだ同チームの今後の活躍が期待されます。



迅速な水の確保のために

9月8日、水道庁舎で応急給水訓練および水道復旧訓練が行われ、行田市水道工事業協同組合員とともに各避難所の責任者となる市職員らが参加しました。

これは、地震による市内全域の断水や配水本管の破損といった被害を想定して実施されたもの。午後の水道復旧訓練では、同組合が水道本管漏水復旧工事を行った後、市職員らが実際に工具を使って配水本管の破損箇所の修繕に取り組み、迅速な水の確保のための動きを確認しました。



体操で心地よい汗を流して介護予防

8月30日、はつらつ教室「筋力アップのコツ伝授!」が荒木公民館で開催されました。

介護予防を目的としたこの教室に、この日は19人が参加。講師の指導のもとさまざまな体操に取り組み、腕や足の筋肉を伸ばしたり曲げたりして、心地よい汗を流しました。参加者は「普段の生活の中で取り入れやすい」、「直接先生に教えてもらえるのがいい」と充実した時間を過ごすことができたようです。



みんなの幸せを願い引き継がれて300年

9月9日・10日の2日間、長野地区内にある久伊豆神社や長久寺などで市の無形民俗文化財に指定されている長野さら獅子舞が演じられました。

五穀豊穡や家内安全などを願い、300年以上保存・継承されてきたこの獅子舞。10日は長久寺で「鐘巻」が演じられ、蛇がひそんだ鐘の周りを、獅子たちが笛の音に合わせ太鼓を打ちながら舞いました。にぎわう境内で観客は勇壮な獅子舞を堪能していました。



地域資源を生かした街づくりについて意見交換

9月9日、「みらい」文化ホールで国際ロータリー第2570地区主催の「文化遺産を活かした「まちづくり」シンポジウム 地域資源を活かしたまちづくり「日本遺産から世界遺産へ」が開催されました。

シンポジウムでは、パネラーとして丸山晃さん(元埼玉新聞社会長)、中島洋一さん(市文化財保護課長)、鈴木秀憲さん(前商工会議所会頭、世界遺産サポーターの会会長)が登場。世界遺産登録に向けた活動が日本遺産の認定につながったことが説明され、街の活性化に向けた今後の取り組みなどについて盛んに意見が交換されました。

記録更新を目指して全力で泳ぐ

8月27日、行田市民水泳大会が行田市民プールで開催されました。この大会には、小学1年生から86歳までが参加し、自由形や平泳ぎ、メドレーリレーなど79部門で日頃の練習の成果を競いました。記録の更新を目指し、スタートの合図で勢いよくプールに飛び込む選手たち。全力で泳ぐ姿に、家族やチームメイトから声援が送られていました。



機敏で正確な操法を競う

9月10日、消防本部訓練場で第45回行田市消防団消防操法大会が開催されました。

小型動力消防ポンプを使用した「小型ポンプの部」には5警備隊が、消防ポンプ自動車を使用した「自動車ポンプの部」には14分団が出場。各分団は日頃の練習で養った規律ある動作、機関操作と放水の正確さ、スピードなどを競いました。彼らの機敏で頼もしい動作に観客から拍手が送られました。

